

母子草

発行所
水戸市八幡町11-52
ラーク・ハイツ内
社会福祉法人
茨城県母子寡婦福祉連合会
029 (221) 7505
編集発行者
境 洋子

第533号



県母連は共同募金会の受配団体です。



新年のご挨拶

社会福祉法人 茨城県母子寡婦福祉連合会 会長 境 洋子

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、健やかに新年を迎えたこととお慶び申し上げます。茨城県母子寡婦福祉連合会の活動に対しましては、日頃から深いご理解とご協力をいただいているところであり、心より御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが引き下げられて、4年ぶりに各地で様々な行事が執り行われるなど、コロナ禍以前の生活が戻ってまいりました。第73回茨城県母子寡婦福祉大会の開催、親子すこやか交流宿泊研修や各市町村母子寡婦福祉会の日帰り研修事業も感染対策を取りながら数多く実施されております。

一方、ウクライナ戦争や円安などの影響から、生活に不可欠な食料、日用品、燃料の値上がり

続き、私たち母子家庭の家計を圧迫しています。

県からは、ひとり親家庭を支援するための給付金を支給していただくなど、大変心強く感じているところです。また、養育費等支援事業も拡充していただいております、厚く御礼申し上げます。

市町村の各母子寡婦福祉会におきましては、高齢化や若い母子家庭の入会者減少などにより、組織の弱体化が危惧されています。先人たちの偉業を忘れることなくこの会を継続していくためにも、会員が一丸となって信頼される団体となるよう新年の新たな思いの中、母子寡婦福祉の向上に努めてまいりたいと思っております。

皆様方には、今後とも、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。



新年のご挨拶

茨城県知事 大井川 和彦

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、日頃から、ひとり親家庭や寡婦の方々の福祉の向上にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は観測史上最も暑い年と言われるなど、地球規模での異常気象に見舞われ、本県も度重なる記録的な豪雨により甚大な被害を受けました。被災された方々が、心安らぐ生活を取戻せますよう、引続き、復旧・復興と防災力の強化に取り組んでまいります。

コロナ禍を乗り越え、社会経済活動が活性化したことは大変喜ばしいことですが、イスラエル・パレスチナ情勢をはじめとした、新たな分断と協

調が進む世界情勢、驚異的な進歩を遂げる生成AIなどの科学技術の急速な社会実装、「地球沸騰化時代」の到来など、新たな事象に次々と直面する中で、長引く物価高騰や最も重要な課題である急激な人口減少への対応が急務であり、私たちは今、将来を見通すことが困難な時代の転換点に立っております。

こうした時代の荒波を乗り越えていくためには、「安心して暮らせる社会基盤」の確保が不可欠です。

特に、母子寡婦福祉につきましては、物価高騰により、厳しい状況にあるひとり親家庭を支援するため、昨年5月に低所得の子育て世帯に対する給付金を支給するとともに、専門支援員による自立支援プログラムの策定に取り組んでまいりました。

県といたしましては、今後も、ひとり親家庭等の生活の安定と自立促進を図るため、児童扶養手当の支給や福祉資金の貸付などの経済的支援はもとより、子育てや生活全般、就業等に係る相談から就労・自立に至るまでの総合的な支援サービスの向上に力を入れてまいりますので、皆様方には、

なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、茨城県母子寡婦福祉連合会の益々のご発展と、皆様方にとりまして、本年が実り多き素晴らしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

県北・県西 ブロックだより

活動報告

日立市母子寡婦福祉連絡会

母子部長 高橋 美貴子

新型コロナウイルスの感染症法の扱いが5類相当となって日常が戻りつつある中、皆様楽しんでいただける事業を行いました。

昨年度は、母子家庭等指導講座を開催しました。子どもたちの年齢は幼児から高校生までと幅が広く、共通するテーマを探り、食育・料理教室に決めました。普段忙しいお母さんと一緒に、講師の指導を受けて調理をする子どもたちのうれしそうな様子が印象的でした。食べ盛りの子どもたちです。お母さんも一食分助かりますし、レポートも増えます。大きい子どもたちは、「家でも作ってみたい」と料理に関心を持つきっかけとなりました。自分たちで作った料理をみんなで囲んでの会食は、とても楽しい時間でした。親子料理教室は、毎年の恒例行事になりました。

また、今年度は数年ぶりに福祉バス研修会を開

催しました。福祉バスは利用が平日に限られているため、大人の会員のための研修会となります。以前は寡婦会員で実施していましたが、今回は母子会員にも参加者を募りました。研修先は、霞ヶ浦環境科学センターと牛久シャトーです。霞ヶ浦環境科学センターは、霞ヶ浦の歴史や利水、環境について学ぶことのできる県の施設です。水について理解を深め、環境問題を身近な自分たちの問題として捉える機会となりました。学習の後は牛久シャトーへ移動し、昼食を摂りました。日常とはかけ離れた日本遺産、国指定重要文化財という特別な空間での食事は、とても優雅で忘れ難い経験となりました。

母子会員は仕事を休んで子どもと離れての参加となります。参加者の方からは、「子どもと離れてのお出かけは初めてでしたが、楽しかったです」「毎日家と会社の往復でしたので、とてもよい気分転換になりました」と好評でした。普段忙しくしているひとり親家庭のお母さんが、自分のための時間を持つことの大切さについても考えさせられた一日となりました。



寡婦研修会に参加して

高萩市母子寡婦福祉会

中村 悦

コロナも落ち着き、初秋に逆戻りした様な晴天のもと、12月9日寡婦研修会を実施することができました。会員5名、役員4名の参加ですが、

お天気にも恵まれ、9時に高萩福祉センターを出発、一路竜神橋へ。汗ばむ程の陽気に、皆様日頃の行いの良さを自画自賛。

雄大な山並みに魅了され竜神橋へ。橋の入口には里美のかかし祭で県知事賞に輝いた来年の干支「里美龍」が鎮座しており、その見事な出来栄に感心しきりでした。その後はいろは坂並みの険しい山道を、運転手さんの見事なハンドル捌きで

登ったり下ったり。紅葉には少し遅かったのですが、時折見える楓やモミジの色鮮やかさに魅せられながら、大子道の駅へ、皆それぞれ昼食を堪能しお買物も楽しみ、もみじ寺(永源寺)のお地藏様の何とも言えぬ可愛らしさに癒されました。黒田リンゴ園では時期的にリンゴ狩りはできなかったものの、新鮮なリンゴを御土産に帰路につきました。コロナ禍で家を出る機会も少なくなっていた昨今、自然を満喫し会話も弾んで4時には福祉

センターに無事到着。

またの再会を約束して家路につきました。



クリスマス会開催について

北茨城市母子寡婦福祉会

会長 鈴木 奈穂子

新型コロナウイルスの拡大により、すこやか事業の日帰り旅行ができなくなりました。会員の皆様との交流を止めることはできません。4年前からはクリスマス会を開催しています。3年間は、コロナ禍のため、ケーキ・クリスマスプレゼント他を手渡しして、会員の方の元気な姿・声を聞くだけでした。

今年は、コロナも5類に移行したこともあり、限られた時間の中でスカットボールやビンゴゲームをして親子の絆や会員同志の交流を図ることができました。

スカットボールは、点数の書いてあるカップにボールを入れるのですが、これがなかなか入らず難しいようでした。スカットボールは子どもたちだけの参加で、クリスマスプレゼントを受取った子どもの喜ばしい顔が忘れられません。

ビンゴゲームは、クリスマス会に参加した会員皆様・役員全員の参加です。

ビンゴになった人には、「おめでとう」の声と拍手が湧き起こり、全員にプレゼントが渡りました。

今年もクリスマス会の開催を無事終えることができました。

参加していただいた会員の皆様、ご協力いただいた顧問・役員の皆様に感謝いたします。

令和6年も、会員皆様との交流を深めるため、楽しい行事を開催していきたいと思っております。



クリスマス会を終えて

常陸太田市母子寡婦福祉会

会長 滑川 真由美

昨年12月10日に、常陸太田市総合福祉会館の会議室をお借りして、クリスマス会を実施しました。大変好評をいただいております。毎年多くの会員さん親子が参加して下さいます。市報を見て参加される、まだ会員にはなっていない母子家庭の方が、クリスマス会をきっかけに母子会に入られることもあり、私たちにとっても大事な行事になっています。

クリスマス会の内容は親子ワークショップ、お楽しみビンゴ大会、サンタさんからのプレゼント。

終わりには、お弁当とケーキを持ち帰っていただいております。

今年のワークショップはスノードーム作りでした。買い出しした材料を1人分ずつ分けるのに、役員のほか数名の会員さんがお手伝いして下さり、前日にはスムーズに準備を済ませることができて、大変助かりました。

スノードーム作りを使用したパーツは、お弁当用のピックや小さな飾りだったので、お母さんに手伝ってもらいながら一緒に作る子や自分でバランスを考えながら作る子もいました。仕上げに好きな色のラメパウダーを入れましたが、1色の子や何色も組合せる子、ラメの量もそれぞれだったので、できあがったスノードームには個性が出たように思います。

サンタさんからは、袋いっぱいにお菓子などの詰合せをもらい、嬉しくて泣いてしまうお子さんもいました。その様子を見ると、企画や打合せ・買い出しや準備など大変な作業ですが「やってよかったな」としみじみ思いました。

県母連や市社協はもちろん、地元スーパーの「かねや」さんにもお弁当や詰合せなど毎年ご協力をいただき、多くの方から支えられて活動することができています。

それらに感謝するとともに、1家庭でも多くの会員数を増やせるよう充実した母子寡婦福祉会にしていきたいと考えています。



◆ 令和5年母子会を振り返って ◆

常総市母子寡婦福祉会

母子部長 岡野 千恵美

常総市の母子会では、コロナ感染症が5類に変更になった今年度から、コロナ禍前とほぼ変わらないイベントを企画し、親子で楽しむことができました。

6月のバーベキュー大会、薪に火をつけるところから始めてお肉・やきそば・マッシュマロなどを焼いていただきました。

11月には、茨城フラワーパークとミカン狩り、少し雨が降ってしまいましたが、美味しいミカンをたくさん食べました。

12月には、恒例のクリスマス会、19世帯の参加がありました。ゲームをやったり、ケーキを作ったり、みんなとっても楽しく過ごすことができました。

2月にも、チャレンジ教室を企画しています。たくさんの親子が参加してくれることでしょう。

また、常総市の母子会も年々、会員数が減っており、高齢化の波がやっています。寡婦の皆様にはずっと元気で、ずっと会を支えていただきたいですが、少しずつ若い保護者の方にもお手伝いの参加をしてもらおうと思っています。そして常総市母子会を盛り上げて行けたらいいなと思います。

これからも皆様が元気で楽しく過ごしていけますように…

◆ 新しい仲間を迎えて ◆

境町母子寡婦福祉会

伊藤 りえ

境町母子寡婦福祉会は、現在親子65名で活動しており、うち令和5年度は新規入会者が15名となりました。ここ近年、なかなか新規入会者の増加がないことから、新規入会者を増やしていこうと役員一丸となり、今年度は令和2年度以降からのコロナによる活動休止状態を払拭するかのよう、イベントを企画してきました。6月には町内スタンプラリー、8月にはディズニーランド、9

月には町主催の花火大会(招待席での自由観覧)、12月にはクリスマスイブに親子クリスマス会を開催しました。

最近開催した親子クリスマス会では、「親子でクリスマスケーキをデコレーションしよう」という企画で、各自デコレーション用の素材を持ち寄り、親子で好きなようにケーキを彩りました。参加者から、「最近の物価高を考えると、クリスマスイブに行くことでそのまま自宅でクリスマスケーキを食べることができたことがとてもよかった」、「親子での時間がとても楽しかった!」との声が出ていました。各家庭個性豊かなかわいいケーキを作って、笑顔いっぱいの時間となりました。



また、3 月には新しく小学校に入学する児童を対象に、お祝い品の贈呈式を予定しています。

現在、ひとり親家庭は、物価高騰などの影響で、とても苦しい状況が続いている家庭が大半です。他からの支援や協力を少しでも受けられるよう、未加入の方への加入促進を目指し、広報やイベントの開催等を通して周知していきたいと考えてい

ます。当会でも、今後はフードバンクへの参加が予定されていますので、少しでも家計への負担軽減が期待されます。

最後に、ひとり親家庭の置かれている生活環境は依然厳しいですが、今後も会員全員で協力しあい、情報交換等を行うなどさらに交流を深めていきたいと思ひます。

お知らせ広場

介護職員初任者研修を受講して

秋 元 紀 子

初めは不安と緊張でいっぱいでした。

子どもが小さく他にあずけ先のあてもなかったので、託児付きは本当にありがたいです。

それでも、毎週日曜日に子がいやがらずに通えるか不安でしたが、みなさんやさしくてお友だちとも仲良くなり楽しく通うことができました。勉強も久々のことでしたが、実習では距離が近いこともあり、自然と仲良くなることができました。

講師の先生方も皆おもしろおかしくあたたかく指導してくださいました。ひとり身で子を持ち、働きながらのステップアップはなかなか難しいものがあります。日々のことで精いっぱいだからです。でもそんな中、資格や新しい職への窓口をつくってくださることは、生活の選択肢や可能性を広げてくれました。

やりとげると自信や心の安定につながります。お守りになります。ここで学んだことを活かして役立てていきたいです。ありがとうございました。

家庭生活支援員養成講習会を終えて

A・H

私は仕事に対して独身時代からの長年のブランクがある状態で離婚が決まり、「体を酷使することなく、家事・育児と収入との面で満足できる仕事には就けないだろう」と悩んでいました。そんな中、市町村の広報誌で本講習会を発見し、これなら自分でもできそう、と思いきって受講してみました。

受講するまでは、夫婦が揃う一般的な家庭の幸

せは築けなくなった、という挫折感から自己肯定感が低く孤独でした。しかし、受講の回を進めるにつれて、「孤独じゃないし、どうせ自分なんてと思わなくていい」と次第に思えるようになりました。

支援員は、子どもが幼い、人手が足りない、有益な情報を知らない、という家庭に必要とされるのではないのでしょうか。このような方々に、自分の経験が活かされ、笑顔を取り戻す手助けができればいいなと思っています。

夢を応援基金 ひとり親家庭支援奨学金制度 奨学生募集

「一般財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会」とローソングroupが力を合わせ、ひとり親家庭の生徒さんを給付型奨学金で応援します。詳しくは「全母子協」ホームページを検索してください。

申込は、社会福祉法人 茨城県母子寡婦福祉連合会 で受付いたします。

全母子協

検索



令和6年度県母連主要行事予定

月	主な事業等	月	主な事業等	月	主な事業等
4	○辞令交付式(4/1) ○夢を応援基金「ひとり親家庭支援奨学金」(申請受付)	5	○監事監査 ○理事会	6	○観劇 ○評議員会 ○第534号母子草発行 ○介護職員初任者研修(6月~10月)
7	○理事会及び表彰審査会 ○就職に役立つ講習会(予定)	8	○第74回茨城県母子寡婦福祉大会(8/30 ザ・ヒロサワシティ会館) ○就職に役立つ講習会(予定)	9	○親子すこやか宿泊研修(9/21~9/22 常陸太田市西山研修所)
10	○関東地区母子寡婦福祉研修大会(10/6) ○第535号母子草発行 ○家庭生活支援員養成講座 ○若年母子家庭セミナー ○全国母子寡婦福祉研修大会	11	○若年母子家庭セミナー	12	○観劇 ○愛の一円玉募金活動 ○シクラメン販売 ○調剤薬局事務講座
1	○新年懇談会 ○第536号母子草発行	2	○市町村母子寡婦福祉指導者等研修会 ○県母子部長等会議	3	○全国母子部長研修会 ○全国母子寡婦福祉指導者研修会 ○理事会 ○評議員会

資格を生かしてひとり親家庭の日常生活をサポートしてみませんか?

保育士やヘルパー、介護福祉士の資格をお持ちの方であれば、一時的に家事や子育てが困難になったひとり親家庭を有償ボランティアとしてサポートできます!

活動には家庭生活支援員としての登録が必要になりますので、お気軽にご連絡ください。資格をお持ちのお知り合いの方もいらっしゃいましたら、ぜひお声かけてみてください。



連絡先

社会福祉法人 茨城県母子寡婦福祉連合会 母子・父子福祉センター
029-221-8497 (平日8:30~17:15)

この度の令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様並びにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

被害に遭われた地域の方々のご無事をお祈り申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興そして被災された皆様の生活が1日も早く平穏に復することを心よりお祈り申し上げます。

母子会加入のお知らせ

各市町村の母子会では、新しい仲間を募集しています。

あなたもお近くの母子会に入って、一緒に事業に参加しませんか。

お問い合わせ

(社福)茨城県母子寡婦福祉連合会
TEL.029-221-7505
<https://www.ibaboren.or.jp>

